

令和2年度自己評価シート(中間評価)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

学校経営目標							
	達成目標	本年度行動計画	評価	理由		担当部等	
1 生徒一人一人に生きる力を育む学校							
① 確かな学力を育成し、進路目標を実現できるよう支援する。							
	<p>■進路目標を明確にさせるとともに、基礎・基本を定着させ、進路目標を実現する。</p>	<p>ア 「総合的な探究の時間」、「ミライ探究プロジェクト」等を活用して、生徒の興味・関心、資質能力に応じて高い目標を持たせ、自ら進路を切り拓く力を育てる。</p> <p>イ 個別面談、個別指導を充実させ、生徒の資質能力、進路志望に応じた学力、思考力・判断力を育てる。</p>	A	<p>・ブルーライトアップ、SNS 発信、おもてなし隊等、生徒の自主性にもとづく活動の輪が広がり、主体性・協働性の成長が促されていることが目に見えて現れているため。</p>		進路指導部	
	<p>■学習環境を整え、自ら学ぶ意欲と学習習慣を身に付けさせる。</p>	<p>ア G suite を積極的に活用し、家庭学習を支援する。</p> <p>イ 家庭学習時間調査を毎日実施し、課題のある生徒には個別指導を行う。</p>	B	<p>・新型コロナウイルス感染拡大の影響により、長期にわたり臨時休業となったが、その期間 G suite を活用し、課題の配信、オンライン授業等の取組を行った。休校明けも、継続して授業等で活用している。</p>		進路指導部 教務部 各教科 各担任	
② 心と体を鍛え「誠実・自主・気魄」を涵養する。							
	<p>■部活動や生徒会活動等における主体的な活動を通して、集団の中で責任ある自主的な行動をとる態度を育成する。</p>	<p>ア 各部活動や生徒会活動において生徒の役割分担を明確にし、自主的な組織運営を図る。</p> <p>イ 主な生徒会行事ごとに事後アンケートを実施し、次年度の改善点を整理する。</p>	A	<p>新型コロナウイルス感染拡大の影響により、生徒の活動が大きく制限される状態が続いているが、この現状が逆に積極的な生徒の意見交換を誘発し、新しいアイデアや創意工夫が生まれることにより、より一層生徒の意欲が高められている。</p>		生徒育成部	

【評価結果の分析】

- ・日々の丁寧な個別指導・個別対応を行うとともに、生徒を信頼して役割を“任せる”ことを通じて生徒のモチベーション向上を図っていることが上記の成果につながっていると考えられる。ただし、もともと主体性・自主性のある生徒が成長を加速させている一方で、そうでないパーソナリティの生徒たち（その多くが自己肯定感・自己有用感が低い傾向がある）が人間関係等の課題を抱え始めている実態もある。
- ・多くの制約がある中においても、生徒自身がやりたい事を明確にし、どうしたら実現することができるか？という前向きな議論を行うことができています。

【今後の改善策】

- ・授業・行事の運営等において、もともと主体性・自主性のある生徒に偏重することなく、後者の生徒にもスモールステップで徐々に役割を担わせるなど、“スポットライトをあてる”ことにより自己肯定感・自己有用感を高められるよう取り組む必要がある。
- ・密を避けるため、どうしても交流（とくに学年間）の機会が減少しているため、他学年との交流行事を積極的に企画立案させる。

2 保護者・地域から信頼される学校							
① 教職員の指導力や職務遂行能力の向上を図る。							
	<p>■「授業づくり」等を進め、指導力の向上を図る。</p>	<p>ア 各学期に、シラバスに基づいた説明を行う。</p> <p>イ 外部講師を招聘しての授業づくり研修及び公開授業等を年複数回実施する。</p>	B	<p>・年度当初や必要に応じた時期にそれぞれの授業者から生徒に対し、シラバスに基づいた説明を行っている。</p> <p>・新型コロナウイルスの影響により、外部講師を招聘しての研修は行っていない。今後、授業観察を行い、授業づくり、授業改善に生かしていく。</p>		教務部	

② 教職員の不祥事防止、業務改善を図る。

<p>■教職員の不祥事防止意識を高揚し、不祥事ゼロを継続するとともに、業務改善を図り職員の時外勤務を減少させる。</p>	<p>情報共有と職員相互のコミュニケーションにより、職員集団での協力体制を構築し、業務の効率化・改善を図る。</p>	<p>B</p>	<p>上半期においては、今年度の目標値(超過勤務時間45時間/月以下の職員の割合:70%以上)をクリアできている。</p>	<p>全教職員</p>
--	--	----------	---	-------------

【評価結果の分析】

- ・本年度はコロナの影響による授業進度の遅れが多少ある。また日々、授業づくり・授業改善に取り組んではいるものの、研究授業等今後実施することとしており、より研鑽する必要がある。
- ・コロナ渦の中で新たな取組を行いながら、業務の簡素化を図る困難さはあるものの、話しやすい職員室で仕事を一人で抱え込まない土壌ができており、効率的に業務を行えている。

【今後の改善方策】

- ・授業観察等計画し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業展開となるよう授業改善を図る。
- ・情報共有と職員相互のコミュニケーションにより、職員集団での協力体制を堅持する。

3 地域とともに歩む学校

① 地域と連携し、開かれた学校づくりを推進する。

<p>■地域協働を推進し、地域に貢献する人材を育成する。</p>	<p>ア 探究活動の時間等で、地域の外部講師を招聘しての授業や体験活動等で、地域との連携を深める。 イ 地域行事への参加や環境美化等のボランティア活動を推進する。</p>	<p>A</p>	<p>・総合的な学習/探究の時間等において、外部講師(主に本校コーディネータ)を招聘し、専門的な指導や、体験を通して生徒の知識・理解や、地域への課題意識を高めることができています。 ・地域行事等への参加が難しい状況ではあるが、校外清掃活動などできる範囲で意欲的に活動を行っている。</p>	<p>教務部 生徒育成部</p>
----------------------------------	---	----------	--	----------------------

②積極的な生徒募集を行う。

<p>■積極的に広報活動を行い、学校の魅力を発信し、地域内外の生徒・保護者にとって「行きたい学校」、「行かせたい学校」となる。</p>	<p>ア 学校の魅力づくりや情報発信に生徒自らが主体的にかかわる。 イ オープンスクール、個別訪問など学校を説明する機会を有効に活用し、学校をPRする。 ウ ホームページを常に更新し、新しい情報を発信する。 エ マスコミに積極的に情報提供し、取材を働きかける。</p>	<p>A</p>	<p>・地域の広報誌「あきおた」に加計高校の記事を提供し、情報発信を行っている。 ・7月にはオープンスクール、11月にも学校説明会を開催し、積極的な学校PRを行っている。 ・今年度もホームページでは、行事等について積極的に更新し、常に最新の情報発信を行っている。 ・新型コロナウイルスの感染拡大の影響で当初の計画通りにできないこともあるが、学校の魅力づくりや情報発信に生徒が主体的にかかわることで、さらに学校が活性化されるとともに、活動がマスコミに取り上げられるなど学校PRの新しい流れができています。</p>	<p>教務部 管理職</p>
---	--	----------	---	--------------------

【評価結果の分析】

- ・今年度立ち上げた生徒募集のプロジェクトチームを中心にオンラインでの地域みらい留学、教務部を中心としたオープンスクールなどで生徒が主体的に参画・活躍しており、加計高校の魅力発信ができています。
- ・ボランティアの機会は激減しているが、ボランティアに対する意識・意欲は前年と比較しても向上している。

【今後の改善方策】

- ・今後も学校説明会、WebページやSNS等での発信などにおいて、生徒の活躍場面を増やし、加計高校で生徒が伸び伸びと学んでいる姿を発信する。
- ・地域住民との直接的なボランティア参加は難しいが、学校独自の清掃活動や安芸太田町の魅力発信など、新たな形での地域貢献を企画・検討していく。

令和2年度自己評価シート(中間評価まとめ)

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

1 評価結果の分析

(1)生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・日々の丁寧な個別指導・個別対応を行うとともに、生徒を信頼して役割を“任せる”ことを通じて生徒のモチベーション向上を図っていることが上記の成果につながっていると考えられる。ただし、もともと主体性・自主性のある生徒が成長を加速させている一方で、そうでないパーソナリティの生徒たち（その多くが自己肯定感・自己有用感が低い傾向がある）が人間関係等の課題を抱え始めている実態もある。
- ・多くの制約がある中においても、生徒自身がやりたい事を明確にし、どうしたら実現することができるか？という前向きな議論を行うことができている。

(2)保護者・地域から信頼される学校

- ・本年度はコロナの影響による授業進度の遅れが多少ある。また日々、授業づくり・授業改善に取り組んではいるものの、研究授業等を今後実施することとしており、より研鑽する必要がある。
- ・コロナ渦の中で新たな取組を行いながら、業務の簡素化を図る難しさはあるものの、話しやすい職員室で仕事を一人で抱え込まない土壌ができており、効率的に業務を行えている。

(3)地域とともに歩む学校

- ・今年度立ち上げた生徒募集のプロジェクトチームを中心にオンラインでの地域みらい留学、教務部を中心としたオープンスクールなどで生徒が主体的に参画・活躍しており、加計高校の魅力発信ができています。
- ・ボランティアの機会は激減しているが、ボランティアに対する意識・意欲は前年と比較しても向上している。

2 今後の改善方策

(1)生徒一人一人に生きる力を育む学校

- ・授業・行事の運営等において、もともと主体性・自主性のある生徒に偏重することなく、後者の生徒にもスモールステップで徐々に役割を担わせるなど、“スポットライトをあてる”ことにより自己肯定感・自己有用感を高められるよう取り組む必要がある。
- ・密を避けるため、どうしても交流（とくに学年間）の機会が減少しているので、他学年との交流行事を積極的に企画立案させる。

(2)保護者・地域から信頼される学校

- ・授業観察等計画し、生徒の主体的・対話的で深い学びを促す授業展開となるよう授業改善を図る。
- ・情報共有と職員相互のコミュニケーションにより、職員集団での協力体制を堅持する。

(3)地域とともに歩む学校

- ・今後も学校説明会、WebページやSNS等での発信などにおいて、生徒の活躍場面を増やし、加計高校で生徒が伸び伸びと学んでいる姿を発信する。
- ・地域住民との直接的なボランティア参加は難しいが、学校独自の清掃活動や安芸太田町の魅力発信など、新たな形での地域貢献を企画・検討していく。

3 学校関係者評価結果を踏まえた今後の改善方策(学校関係者評価実施後に記入する。)

- ・安芸太田町の小・中学校で進めてきた「協調学習」に続く取組となるよう授業づくりをすすめるための方策を具体化させる。

令和2年度学校関係者評価シート(中間評価)

令和2年10月30日

校番	20	学校名	広島県立加計高等学校	校長氏名	工藤 宏一	全・定・通	本・分
----	----	-----	------------	------	-------	-------	-----

評価項目	評価	理由・意見
目標、指標、計画等の設定の適切さ	A	めざす生徒像の実現に向けて、その基盤となる教職員の指導体制づくりと地域との連携の在り方を目標としており、評価が的確にできている。 計画についても具体的で、取組みやすい。
計画の進捗状況の評価の適切さ	A	社会情勢が混沌としている中であっても、状況に応じて目標に向けた取組を行い。適正に評価されている。 評価結果から、7項目中4項目がA、3項目がBであり、進捗状況も適正である。
目標達成に向けた取組の適切さ	A	進路目標の実現、学習習慣の確立、「誠実・自主、気魄」の涵養、不祥事防止・業務改善、地域連携・開かれた学校の取組は適切で効果的である。 とりわけ、地域連携では大きな成果を上げ、生徒の主体性を育てており、このことが、進路目標の実現に結実している。
評価結果の分析の適切さ	A	評価結果の分析と生徒や学校の状況とはよく合致しており、概ね適切である。 生徒一人一人に着目した評価となっており、課題や悩みを持つ生徒の動向にも注視された分析は評価できる。
今後の改善方策の適切さ	B	学力向上及び進路実現への取組については引き続き継続した取組をお願いしたい。地域貢献活動については、幅広い活動であり、加計高校の魅力を創出しており、今後の取組も期待している。 安芸太田町の小中学校で実践している「協調学習」に続く取組を期待する。改善方策については、数値を示すなどもう一步踏みこむとよい。
総合評価	A	コロナ渦のもとでも、できることを精一杯取組む姿勢に町民は心打たれます。次年度の生徒募集に向けた取組は難しい状況ではあるが、加計高校の魅力発信はできている。 学校長の掲げた教育目標とめざす生徒像に、今の加計高校生が自らの目標として進んでいこうとしている。また、それを支える教職員の組織力を感じることができる。